



6天沼中第316号

令和7年1月29日

杉並区立天沼中学校

自主・自律・共生



個性の尊重

校長 池田 和幸

3学期も残すところおよそ2ヶ月となりました。1年間の仕上げの時期として、これまで学んできたことを生かして、しっかりと自分を成長させてほしいと思っています。「〇年生の〇学期」といういい方をよくしますが、3学期は1年間の中で一番短い学期であり、締めくくりとしてこれまでに学んできたことなどを振り返りながら、新しい年度に向けて目標を定め、よいスタートが切れるように準備をするための学期であると位置づけられるからとも言えます。3年生は目の前に中学卒業が迫っていますが、卒業後の進学先等にむけた準備の学期とも言い換えることができるでしょう。

先日ある本を読んでいて、ハッとさせられることがあり、ぜひ皆さんにも読んでいただきたいと思いますので、ここでご紹介します。『客観性の落とし穴』村上靖彦著、ちくまプリマー新書刊」という本です。自然科学の発展に伴う、様々な事象をデータ化して客観化していったことで、数値化できない個々の人の経験といったものを排除し、数字に置き換えられるものを重要視するあまり、多くの人が競争に縛られて苦しんでいる現状があるのではないかと警鐘を鳴らしている本です。決して筆者は客観的なデータを否定しているのではなく、ひとり一人の経験といった数値やデータでは捉えられないものも大切にしていくことで、マイノリティも尊重される社会が形成されていくのではないかと述べています。

この本で特に印象に残った部分としては、「科学の発展とともに、我々の生活が統計に支配されるようになっていき、数値で序列化していくようになる。経済的に役立つものが価値のあるものとなっていった。」という歴史的流れが、順を追って述べられていたところです。私たちも無意識のうちに経済性を第一に物事を価値付けしている面があるのではないかと考えさせられました。

昭和の末期の時期に画一的な管理教育と言われる、厳しい校則等で生徒を縛っていく教育から、「個性の尊重」という言葉が前面に打ち出されるようになり、ひとり一人の個性を大切にしようという教育活動が進められてきました。本校においても、生徒ひとり一人の判断を大切にするように、服装等に細かく規則を定めることなく教育活動を行っています。昭和60年

代から40年以上の長きにわたって個性を大切にするように教育活動をおこなってきているものの、面接練習等で生徒に進路への考え方などを尋ねると、多数の生徒から同じような考え方が聞かれます。例えば、「つきたい職業はまだ決まっていませんが、高校卒業後、大学に進学したい。」や、「〇〇大学への進学ができるので、附属校である高校に進学したい」といった言葉です。大学への進学が先にあり、そこから進学理由を考えていくことや、進学したい大学名が先にあり、その大学に進学できれば何を学ぶのかは後付けでよいという考え方がその根底にあることが分かります。多くの生徒にこういった考え方があることは、数値化され経済的に役立つものが価値付けされているという現代社会を大いに反映しているのではないかと思います。

個性というのは、国語辞典を調べると「他の人と違った、その人特有の性質・性格」と説明されます。人は皆自己の世界をもっています。時間と空間を考慮すると決して自分と他者は同じ景色を見ることができません。意識の内外にいて、ひとり一人異なる世界を皆が持っているということが出来ます。そう考えると、個性というのは、ひとり一人の世界の違いであるということができるでしょう。先ほどご紹介した本にあるように、客観性を重視している現代社会においては、自己の世界が数値化された尺度によって序列化され知らず知らずのうちに意味を失っていつている可能性があります。学校教育において「個性の尊重」、「多様性を受け入れる」等の個々を大切にすることということが掲げられているものの、現実にはその価値が実現されてはいないのではないかと、大きな反省が生まれてきました。よりひとり一人を大切に教育活動を充実させ、様々な角度から物事を考えていく活動を充実させていくことが必要だと考えています。

今月の学校便りには、2学期に実施した様々な調査の結果を掲載させていただきました。統計的に分析を行い、客観的に本校の現状を把握していきたいと思いますが、個々の生徒・保護者・地域の皆様の声も大切にしていきたいと考えています。天沼中学校に関わる人全員にとってしあわせを創る学校となれるようにしていきたいと思います。

杉並区「意識・実態調査」の結果について

11月に行われた杉並区中学校生徒対象の「意識・実態調査」の本校の結果です。数値は肯定的（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）に答えた生徒の回答率となっています。赤字は肯定率70%未満の値です。

授業については「内容が分かる」と答えた肯定率が高いことに対して「得意である」と答えた肯定率が低く、学校での授業内容は理解できるが学習に対する苦手意識があることがうかがえます。「計画的に学習を進めること」や「教科書を読むなどして授業で学習することに見通しを持つこと」、「どうやらうまくいくか考えてから学習すること」等を身につけていくことが必要であると考えます。また、「学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ」「わからないことがあれば先生が自分に合わせて教えてくれる」「自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしている」などの肯定率が低いことから、個に応じた学習、協働的な学習を進めていくことが本校の課題であると読み取れます。読書習慣や学習習慣についても学年ごとに違いがあります。表が小さく見にくいところもありますが、ご家庭でもご覧いただき参考にしてください。

授業に関わる内容	1年	2年	3年
国語の授業の内容はどのくらい分かりますか。	92.3	93.1	93.0
国語の学習はどのくらい得意ですか。	56.4	60.9	67.6
漢字を何度もくり返し書いて覚えている。	73.1	78.2	80.3
漢字の部首の意味も考えながら覚えている。	37.2	41.4	35.2
似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。	48.7	46.0	49.3
テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。	75.6	82.8	71.8
テストで漢字を書きまちがえたときは、どこをまちがえたのかを確かめている。	89.7	83.9	84.5
社会の授業の内容はどのくらい分かりますか。	94.9	83.9	90.1
社会の学習はどのくらい得意ですか。	65.4	62.1	59.2
数学の授業の内容はどのくらい分かりますか。	73.1	85.1	71.8
数学の学習はどのくらい得意ですか。	44.9	52.9	49.3
数学で学習する言葉や公式は、見ないでも言えるようにしている。	66.7	80.5	85.9
数学で学習する言葉や公式の意味を理解しようとしている。	83.3	90.8	77.5
数学で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。	65.4	69.0	69.0
答えだけではなく、途中（とちゅう）の計算も書いている。	80.8	89.7	84.5
簡単に計算することができないかを考えてから計算している。	67.9	78.2	78.9
まちがえた計算問題は、どこでまちがえたのかを考えている。	84.6	86.2	90.1
テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。	52.6	65.5	67.6
理科の授業の内容はどのくらい分かりますか。	92.3	92.0	85.9
理科の学習はどのくらい得意ですか。	71.8	64.4	67.6
英語の授業の内容はどのくらい分かりますか。	92.3	74.7	78.9
英語の学習はどのくらい得意ですか。	66.7	41.4	52.1
授業では、問題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じる人が多いと思う。	80.8	77.0	83.1
授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。	69.2	74.7	78.9
授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。	73.1	77.0	71.8
授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。	74.4	87.4	91.5
授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。	71.8	75.9	83.1
授業では、学習した内容をどのように振り返ったよいかを、教えてもらっていると思う。	64.1	69.0	77.5
自分の学力に応じたコースに分かれて、数学や英語の授業を受けることについて、どのように思いますか。	88.5	93.1	93.0
自分の学力に応じたコースに分かれて、数学や英語の授業を受けることで、よく分かるようになると思いますか。	82.1	86.2	85.9

学習に関わる内容	1年	2年	3年
確実にできるようにするまで、くり返し練習している。	61.5	62.1	77.5
難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる。	73.1	70.1	69.0
分からないことがあっても、学習を続けるようにしている。	78.2	72.4	76.1
集中して学習に取り組んでいる。	88.5	85.1	81.7
どうやらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている。	60.3	58.6	64.8
学習の途中（とちゅう）で、分からないところやできないところはどこかを考えている。	74.4	80.5	84.5
学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫（くふう）している。	64.1	64.4	70.4
テストでまちがえたときは、なぜまちがえたのかを考えている。	76.9	73.6	77.5
他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている。	66.7	77.0	77.5
分からないときは、他の人や先生に質問して解決している。	85.9	79.3	80.3
自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。	56.4	57.5	66.2
他の人と相談して、考えを深めるようにしている。	66.7	74.7	77.5
学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている。	66.7	80.5	80.3
どうしてそうなのかという理由を考えながら学習している。	84.6	80.5	84.5
答えだけではなく、考え方も確かめながら学習している。	75.6	81.6	78.9
大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。	87.2	88.5	85.9
発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。	83.3	73.6	87.3
他の人の話を聞くとときは、メモを取って理解するようにしている。	56.4	51.7	59.2
自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。	83.3	82.8	88.7
他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。	85.9	80.5	87.3
文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。	78.2	66.7	67.6
文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。	43.6	55.2	69.0
前に同じような問題をやったことがあるかや、今まで学習した問題とどこがちがうのかを考えている。	70.5	78.2	78.9
分かっていることと求めることを考えて問題に取り組んでいる。	84.6	83.9	77.5
問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。	47.4	57.5	59.2
式と答えだけではなく、途中（とちゅう）の計算も書いている。	84.6	86.2	88.7
まちがえた文章問題は、どこでまちがえたのかを考えている。	80.8	81.6	83.1
自分で計画を立てて学習している。	63.0	61.6	66.7
教科書を読むなどして、授業でこれから学習することの見通しをもつようにしている。	54.8	42.5	57.6
教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを振り返るようにしている。	65.8	63.0	65.2
教科書やドリルの問題に取り組むなどして、学習したことを確実にできるようにしている。	68.5	71.2	83.3
授業で学習した内容について、疑問に思ったことや興味をもったことを調べるようにしている。	63.0	72.6	77.3

その他の内容

新しいことを学んで身に付けようとするとき、自分で計画を立てて学習を進めることができる。	48.7	36.8	60.6
相手が自分とは違う考えや気持ちでも、受け止めている。	74.4	81.6	85.9
いまの学校のみならず、協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思う。	56.4	72.4	69.0
授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる。	57.7	64.4	64.8
授業中、分からないことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる。	55.1	47.1	57.7
自分には、自分のやりたいことを応援してくれる身近な地域の大人がいる。	60.3	70.1	74.6
授業では、タブレット端末を活用した授業を行っている。	91.0	94.3	85.9
学校の生活が楽しい。	76.9	85.1	80.3
読書は好きである。	44.9	46.0	39.4

学習意欲に関わる内容

	1年	2年	3年
分かることやできることが楽しいから。	83.3	85.1	83.1
しっかり考えられるようになりたいから。	80.8	79.3	77.5
将来の仕事や生活に役立つから。	71.8	79.3	81.7
友達や先生と学習するのが楽しいから。	83.3	82.8	74.6
学校の学習で人に負けたくないから。	61.5	54.0	50.7
先生や家の人にほめられたり、ごほうびをもらえたりするから。	42.3	56.3	52.1

	1年					2年					3年				
	読み終わった本が6冊以上ある	読み終わった本がある(2冊から5冊)	1冊読み終わった	読んでいる途中の本がある	全く読んでいない	読み終わった本が6冊以上ある	読み終わった本がある(2冊から5冊)	1冊読み終わった	読んでいる途中の本がある	全く読んでいない	読み終わった本が6冊以上ある	読み終わった本がある(2冊から5冊)	1冊読み終わった	読んでいる途中の本がある	全く読んでいない
10月中に本を読みましたか。	15.4	19.2	26.9	19.2	19.2	5.7	16.1	18.4	20.7	39.1	8.5	14.1	15.5	12.7	49.3
	毎日2時間以上	毎日1時間以上、2時間より少ない	毎日30分以上、1時間より少ない	毎日30分より少ない	全く読んでいない	毎日2時間以上	毎日1時間以上、2時間より少ない	毎日30分以上、1時間より少ない	毎日30分より少ない	全く読んでいない	毎日2時間以上	毎日1時間以上、2時間より少ない	毎日30分以上、1時間より少ない	毎日30分より少ない	全く読んでいない
学校以外で、月曜日から金曜日まで、毎日およそどのくらいの時間、学習をしますか。	7.7	35.9	34.6	15.4	6.4	6.9	14.9	35.6	26.4	16.1	38.0	23.9	18.3	12.7	7.0
学習塾(じゅく)や家庭教師による学習の時間は、1週間の合計で、およそどのくらいですか。	6.4	16.7	30.8	26.9	19.2	3.4	24.1	41.4	14.9	16.1	36.6	19.7	29.6	5.6	8.5

杉並区「教育調査」保護者アンケートの結果について

12月に取り組んでいただいた杉並区「教育調査」の保護者アンケートの結果です。青字が杉並区の平均肯定率に対して4%以上高い値、赤字が4%以上低い値となっています。

アンケートからは特別支援に関する項目が低いことが読みとれます。本校では学びの教室として「天沼ほっとスペース」の取組や個別学習を行う「プレ天沼ほっとスペース」を行っています。特別支援ではありませんが教室以外の学習の場としての校内別室登校支援「天沼ほっとタイム」の取組、学校支援本部による放課後や休日の学習教室「天沼倶楽部」「英語カフェ」の取組なども行っていますので、今後これらの取組に対して積極的に情報提供していこうと思います。杉並区の平均値と比べて低いわけではないですが、「学校はいじめを絶対に許さないという雰囲気がある」「子どもが人間関係や自分自身の心の問題に悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細やかに支援してくれている」の項目が肯定率50%を下回っていることについては課題として受け止め、改善に向けて取り組んでいきます。ご多用の中、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

天沼中 杉並区					天沼中 杉並区				
子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできていると感じている	59.6	57.2	59.6	57.2	学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している	75.8	64	75.8	64
子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている	68.7	65.9	68.7	65.9	学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている	83.8	85.9	83.8	85.9
子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる	52.5	48	52.5	48	学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている	52.5	43.8	52.5	43.8
学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	58.6	47.3	58.6	47.3	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている	41.4	37.4	41.4	37.4
連携する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている	68.7	43.2	68.7	43.2	学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている	23.2	25.4	23.2	25.4
子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	67.7	66.3	67.7	66.3	子どもは、学校生活を楽しんでいる	70.7	70.1	70.7	70.1
学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	34.3	33	34.3	33	子どもは、通級指導教室・特別支援教室で学ぶことによって、学校生活全般への参加がしやすくなっている	50.0	62.8	50.0	62.8
学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある	45.5	40.9	45.5	40.9	学校は、特別支援教育の現状や上級学校又は社会人の生活など、障害者に関する様々な情報を、保護者会や個人面談、進路説明会などの機会をとおして提供している	66.7	43.1	66.7	43.1

総務省「青少年のインターネット・リテラシーに関する実態調査」(ILAS)の結果について

総務省の2024年度「青少年のインターネット・リテラシーに関する実態調査」(ILAS)に申し込み、12月に調査を実施しました。インターネットリテラシーとはインターネットを安全かつ効果的に利用するための知識やスキルのことを指します。学年が上がるにつれて正答率が高くなっていることがうかがえますが、有害情報リスクやセキュリティリスクについては課題がみられます。ご家庭でもご覧いただき、インターネットの利用の仕方について話し合う機会としてください。

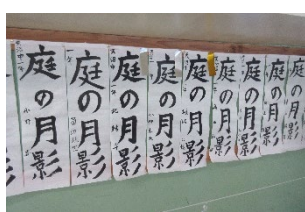
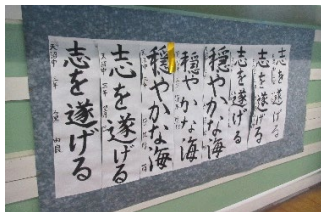
青少年に必要なリスク対応能力

リスク分類		対応能力	リスクの具体例
大分類	中分類		
1. 違法有害情報リスク	1a. 違法情報リスク	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる	肖像権、未成年者の出会い系サイトの利用 等
	1b. 有害情報リスク	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる	公序良俗に反するような情報、偽・誤情報 等
2. 不適正利用リスク	2a. 不適切接触リスク	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる	SNSいじめ、SNSでの出会い 等
	2b. 不適正取引リスク	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる	ネット上の売買、フィッシング詐欺 等
	2c. 不適切利用リスク	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる	マナー、ネット依存 等
3. プライバシー・セキュリティリスク	3a. プライバシーリスク	プライバシー保護を図り利用できる	プライバシー・個人情報流出 等
	3b. セキュリティリスク	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる	不正アクセスのなりすまし、ウイルス 等

リスク大分類		リスク中分類	問題番号	平均正答率			
				学校全体	1年	2年	3年
1 違法有害情報リスク	1a 違法情報リスク	Q1	Q1	98.8%	96.0%	100.0%	100.0%
			Q2	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	1b 有害情報リスク	Q3	Q3	72.5%	60.0%	66.7%	92.0%
			Q4	60.0%	64.0%	53.3%	64.0%
2 不適正利用リスク	2a 不適切接触リスク	Q5	Q5	93.8%	96.0%	90.0%	96.0%
			Q6	91.3%	92.0%	90.0%	92.0%
	2b 不適正取引リスク	Q7	Q7	75.0%	56.0%	83.3%	84.0%
			Q8	80.0%	72.0%	73.3%	96.0%
	2c 不適切利用リスク	Q9	Q9	90.0%	88.0%	90.0%	92.0%
			Q10	91.3%	84.0%	93.3%	96.0%
3 プライバシー・セキュリティリスク	3a プライバシーリスク	Q11	Q11	92.5%	88.0%	90.0%	100.0%
			Q12	81.3%	68.0%	80.0%	96.0%
	3b セキュリティリスク	Q13	Q13	85.0%	68.0%	90.0%	96.0%
			Q14	68.8%	52.0%	73.3%	80.0%

書初め展

12月から書道の授業を行い、書初め教室や冬休みの宿題で取り組んだ書初め作品を校内にて展示しています。学年ごとの課題の文字にそれぞれの思いを乗せた書写作品が並び、新年の伝統行事として生徒が一生懸命に取り組んだ様子が感じられます。2月には学習展示発表や土曜公開授業もありますので、ぜひ学校にてご覧ください。



1月18日～24日、杉並区書初め展が区役所ロビーで開催されました。本校からは右の6人が選ばれ、展示されました。

